



日本製薬株式会社

日本製薬株式会社 企業概要

事業内容

医薬品・医薬部外品ならびに培地の製造販売

売上高

183億5,800万円（2019年3月期）

従業員数

389名（2019年3月31日現在）

本社所在地

東京都中央区明石町8番1号
聖路加タワー17階

URL

<https://www.nihon-pharm.co.jp/>

今回の導入製品

□ Ivanti Environment Manager Policy



経理部 情報システムグループ
課長代理
酒井 篤志 氏（写真左）

経理部 情報システムグループ
安達 隆浩 氏（写真右）

日本製薬様は、2018年1月からWindows7からWindows10へのリプレースを展開。2019年2月には、MR（医薬情報担当者）を対象に約200台のリプレースを実施した。この際、リプレース作業を大幅に効率化することが必要となったがIvantiのソリューションを導入することで、この課題を解決した。

導入背景

- ＞2020年1月の延長サポートの終了に備えて、2018年1月から段階的にWindows7を搭載したPCをWindows10搭載機にリプレース
- ＞これまでは、移行用バッチを作成してデータ移行を行っており、リプレース作業の準備に大きな負荷が掛かっていた
- ＞新規ユーザープロファイルのカスタマイズ（タイル、デスクトップ、スタートメニュー、タスクバー、エクスプローラー、IE設定等）はSysprepのコピープロファイルで行っていたが、コピープロファイルに関連する不具合対応に大きな負荷が掛かっていた
- ＞MRを対象とした約200台のPCリプレースに備えて、IT管理者とMRに負担をかけることなく、リプレース作業の時間を大幅に短縮したい

Ivanti製品の選定理由

- ＞従来の環境で必要だった移行用バッチ（MS-DOS）の作成が不要になることに加えて、移行設定の作成と編集が容易である
- ＞マルチスレッドエンジンでの処理や差分バックアップをワンクリックで行うことが可能で、リプレース時の移行作業時間を大幅に削減できる
- ＞新規ユーザープロファイルのカスタマイズの自動化ができ、従来機種毎に行っていたコピープロファイル用の標準設定作業や不具合対応の作業が不要となる

導入効果

- ＞従来はバックアップ&リストアのデータ量が多い人は移行に時間がかかっていたが、Ivantiのソリューション導入後は移行処理時間を短縮する事ができた
- ＞コピープロファイルを使用していた従来の環境に比べて、新規ユーザープロファイルのカスタマイズ処理を省く為のマスター作成に要する時間が3分の1に短縮できた
- ＞PCのリプレース時だけでなく、新しいアプリケーションの設定が容易になった

サポート切れに備えてWindows7からWindows10へPCを移行 MRを対象とした大量リプレースに備えてIvantiのソリューションを導入 リプレース作業に要する時間を1時間に大きく短縮できた

日本製薬様は「優れた医薬品並びに医薬関連製品の研究開発・製造・販売を通じて人々の健康増進に貢献する」ことを経営理念に掲げ、血液の中の血漿から作られる血漿分画製剤を中心に消化器領域薬、殺菌消毒剤などの事業領域に特化した「ベーシック&ニッチドラッグファーマ」として成長を続けています。経営環境が激変する医薬品業界において顧客に優れた製品を届けるために、同社は研究開発力や製造技術力、医薬情報伝達・収集力などの向上に絶え間なく力を注ぎ、確かな未来に向かって挑戦し続けています。

同社のITシステムを管理しているのが、経理部に置かれた情報システムグループです。同社では、OSにWindows7を搭載したPCを全社に導入していましたが、2020年1月の延長サポートの終了に備えて、2018年1月から段階的にWindows10を搭載したPCに移行してきました



Ivanti導入前は、Windows10のマスターに、デスクトップ環境やスタートメニュー、ウェブブラウザの「お気に入り」などの環境設定（プロファイル）を社内の標準に統一するために、Windowsが備えている「Sysprepのコピープロファイル」という機能を活用していました。

コピープロファイルは、最初のログオン時にあらかじめデフォルトプロファイルに設定した内容を新規プロファイルに読み込んで設定する機能です。この機能で社内標準のWindows環境に設定をしてから、バッチファイル（MS-DOS）でユーザーデータを移行します。データセンターの共有ストレージに古いPCのデータをバックアップし、新しいPCにこれをリストアするという運用方法です。

Ivanti導入前ではこれを処理するためのバッチファイルを情報システムグループが作成していました。データ移行時アクセスが集中することもありこの作業に半日以上も要するMRもありました。

2019年2月には、MRが使用している約200台のモバイルPCのリプレースが控えていました。普段MRは外勤活動をしている事から、限られた時間の中でデータのバックアップ、移行が求められます。**情報システムグループで課長代理を務める酒井篤志氏**は、当時の状況を次のように振り返ります。

「多くのMRIは外勤活動を行っており、月に1回しかオフィス勤務が出来ないMRもいます。こうしたMRIに、これまでの運用方法を強いるのは困難だと考えました」

このほか、Windows10ではコピープロファイルの仕様が 바뀌って、従来の運用方法では不具合が起こるといったケースもありました。そこで、こうした状況を改善するツールの導入の検討を開始しました。そんなときに、前から付き合いのあったIvanti Softwareの担当者から紹介されたのが「Ivanti Environment Manager Policy (EMPO)」でした。

ユーザープロファイルの移行を自動化するEMPOを導入

EMPOは、グループポリシー（GPO）とログオンスクリプトを独自のテクノロジーで代替するソリューションですが、このEMPOではWindows7からWindows10へのユーザープロファイルの移行機能を備えています。EMPOでは、グラフィカルでシンプルなユーザーインターフェースから、さまざまなアクション(動作)を設定できます。ユーザープロファイルの移行設定だけでなく、PC上で実行する多数のアクションが用意されています。IT管理者がカスタムアクションを作成することも可能です。

アクションを実行するトリガーはPCの起動時やシャットダウン時、ネットワークの有効時、ログオン時やログオフ時、手動実行など柔軟に設定できます。マルチスレッドエンジンを搭載しており、複数のアクションを同時に実行するので、処理を高速化することが可能です。

アクションを実行する際のコンディション（条件）も設定できます。コンピュータ（コンピュータ名やドメイン名、IPアドレスなど）やユーザー（ユーザー名やグループ、管理者か否かなど）といったコンディションを柔軟に設定できます。

日本製薬様では、拠点毎のPCに割り振られているIPアドレスを判断し、最寄の共有ストレージへデータのバックアップ・リストアを行うコンディションを設定しています。



経理部 情報システムグループ
課長代理
酒井 篤志 氏(写真左)

経理部 情報システムグループ
安達 隆浩 氏(写真右)

リプレース作業に要する時間を1時間に短縮

日本製薬様は、MRのPCリプレースに先駆けて2019年1月にEMPOを導入しました。同年2月から3月にかけて実行したリプレースでは、遠方からオフィスに帰社しているMRを考慮して、操作説明会とリプレース作業を4時間で行いました。説明会開始時に、EMPOをインストールした古いPCからデータのバックアップ処理を実行します。ユーザーは説明会で新しいWindows10にログインを行い、新規ユーザープロファイルの設定変更（タイトル、デスクトップ、スタートメニュー、タスクバー、エクスプローラー、IE設定等）を行います。説明会終了時にはバックアップ処理が完了しており、ユーザーデータのリストアを開始します。全ての時間を合計しても4時間ほどで済んだと言います。**情報システムグループの安達隆浩氏**は、このときの様子を次のように語ります。

「従来の運用方法は作業時間が長く、作業が終わるまで多くのMRが待機している状態でしたが、EMPOの処理時間は1時間程度ですので、確実に勤務時間内に作業が終了しています」

EMPOは、バックアップをとる際に差分だけを複製する機能も備えています。そのため、リプレース作業の前に1度バックアップをとっておくことで、当日は5分程度でバックアップ処理が終わったといえます。マルチスレッドエンジンによって、各種の処理が高速な点も作業時間を大きく短縮している要因です。現在は、Windows10からWindows10へのリプレースにもEMPOを活用しています。

EMPOは、PCのリプレース以外にも情報システムグループの生産性向上に貢献しています。新しいアプリケーションの追加などで設定を変更する際のメンテナンスが容易になったのです。従来のSysprepのコピープロファイルは、一度設定をした後追加で設定を変更できない「一発勝負」でした。その都度、PCの設定を手作業で変えるか、バッチ処理のプログラムを作らなければなりません。これに対して、EMPOであれば後からでも簡単に各種の設定を変更することが可能になり、従来のマスター作成工数が削減できるため作業時間も3分の1に短縮できました。

酒井氏は「導入後に気づく恩恵が数多くあります。導入前の想定よりも、費用対効果が非常に大きいと感じています」と評します。

日本製薬での移行イメージ



Ivanti Software 株式会社

〒102-0093 東京都千代田区平河町1-1-8 麹町市原ビル5F

TEL : 03-5226-5960

FAX : 03-5226-5961

e-mail : Contact-Japan@ivanti.com

URL : www.ivanti.co.jp